

あばれ鳶（1956）

メディア 映画

ジャンル 時代劇

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1956/12/12

【解説】

「猫と庄造と二人のをんな」の八住利雄によるオリジナル脚本を「銭形平次捕物控 人肌蜘蛛」の森一生が監督した、いわゆる“鳶もの”の一作。市川雷蔵が悪旗本と対立する火消しに扮している。

“は組”の組長の長五郎は自分の娘お光を、小頭の源太と結婚させようと考えていた。お光も源太に思いを寄せていたが、彼には芸者の小染と将来を誓い合っている。旗本の松平刑部は火消しの方法をめぐって“は組”と対立しており、半次を捕らえたあげく小染を鬼面組の酒宴に連れ出した。二人はどうか逃げ出すことに成功するが、源太は鬼面組の人間により斬られてしまう。また小染が再びさらわれ、組の纏まで持ち去られたことから“は組”は“い組”“ろ組”とともに立ち上がった。

【クレジット】

監督 森一生

製作 武田一義

企画 浅井昭三郎

脚本 八住利雄

撮影 本多省三

美術 西岡善信

音楽 鈴木静一

出演 市川雷蔵

嵯峨三智子

林成年

近藤美恵子

黒川弥太郎

中村玉緒